

第5回山上憶良短歌賞表彰式

平成29年3月26日（日）

第5回山上憶良短歌賞表彰式の開催おめでとうございます。そして、数多くの応募の中からもめでたく受賞されました皆様おめでとうございます。また、選考などにあたられた永田和宏先生をはじめ、関係者の皆様大変お世話になりました。

受賞されました皆様は、小学生、中学生、高校生、一般の部6185首もの作品の中から選ばれました。平成24年度に始まったこの山上憶良短歌賞。私が小学校に勤務していた最後の年に始まったもので、山上憶良と倉吉市が関係あるということは知っていたものの、このように盛大な授賞式が開催されるとは考えてもいませんでした。応募も第1回の市内の小中学生1234作品から、回を重ねて、今回の第5回では市内及び県内各地はもとより県外からも多くの作品応募がありました。

午前中、国分寺歴史公園の近くで山上憶良と倉吉と山上憶良を結びつけてくれた昭和時代アララギ派の歌人土屋文明氏の歌碑除幕式がありました。歌碑はとても素晴らしいものでしたが、これは歌碑建立委員会を中心として寄附によるものだとお聞きしました。

歌碑を眺め、私は、憶良が国守（現在の県知事）として伯耆の国に赴任した1300年前の頃の情景に思いを寄せました。50才を過ぎてから県知事として4年間勤めた憶良。不入岡の地からうつぶき山や大山を眺めながら何を考えたのでしょうか、家族への思いだったのでしょうか。

時が流れ、山上憶良に思いをはせながら「家族をテーマに」57577の31文字の短歌を作っています。この山上憶良短歌賞は来年度も全国公募をされるとお聞きしています。今年の鳥取中部地震や今年に入ってから2度にわたる大雪に負けず倉吉はがんばっていること、鳥取県立美術館の設立に向けた動きとともに、古くからの歴史を持ち、優れた芸術文化の地としての倉吉を発信していきたいものです。

受賞されました皆様方に改めてお祝いしますとともに、この事業が益々発展していくことを期待してお祝いの言葉といたします。